

YAMAHA

# AR 240 High Output



■AR240 High Output  
 全長(m):7.2、全幅(m):2.6、完成質量(kg):1528、  
 定員(名):11、搭載エンジン:1812cc HighOutput Engine×2  
 燃料タンク容量(L):190(※リザーブタンク含む)、  
 最大馬力(PS):180×2、エンジンタイプ:4ストローク/4気筒  
 ¥7,449,120 メーカー希望小売価格  
 (本体、法定安全備品類他、消費税込み)

# YAMAHA AR 190



■AR190  
 全長(m):5.8、全幅(m):2.4、完成質量(kg):1008、  
 定員(名):8、搭載エンジン:1812cc HighOutput Engine  
 燃料タンク容量(L):114(※リザーブタンク含む)、  
 最大馬力(PS):180、エンジンタイプ:4ストローク/4気筒  
 ¥4,644,738 メーカー希望小売価格  
 (本体、法定安全備品類他、消費税込み)

# YAMAHA SPORTS BOAT Impression

■取材協力:出光マリンズ株式会社 [www.idemitsu-marina.co.jp](http://www.idemitsu-marina.co.jp)  
 三河御津マリーナ  
 愛知県豊川市御津町御幸浜1-1-21  
 Tel:0533-76-3100  
 ヤマハ発動機 製品情報: [www.yamaha-motor.jp/marine/](http://www.yamaha-motor.jp/marine/)



今回はヤマハの人気スポーツボート『AR240 High Output』、『AR190』のインプレッションの様相をご紹介していこうと思う。取材当日編集部が向かったのは愛知県豊川市にある出光マリンズ三河御津マリーナ。ここは三河湾に面していて、様々な釣りを楽しんだり、三河湾に浮かぶ島からもちょうどいい距離、クルージングにも最適なマリーナ。到着後に早速2艇のモデルが目飛び込んできた。どちらのモデルとも非常にスタイリッシュなボディで今にも走り出してしまいそうな力強さも伝わって来た。まずは『AR240 High Output』から撮影を始める。デッキに乗り込もうとした際に、スィミングプラットフォームに足を踏み入れたのだが、非常にゆったりと幅を取ってあり、水中からの乗

りこみもしやすいと思った。ジェットインペラー点検用ハッチから点検をする時にもこの広さは嬉しいのではないだろうか。そしてデッキ内も非常に広々としていてくつろぎ易い。シート一つ一つがしっかりと体を受け止めてくれるため、座ってすぐに心地良い気分になれた。また、パウシートに座れば迫力あるクルージングを体験することも出来る。このパウシートという場所が個人的には非常に気に入っていて、もちろん運転が一番楽しいのだが、ここから見る海は一段と迫力が有るだけでなく、乗っている船の波の捌き方や乗り心地をより感じる事が出来る場所だと思う。そしてナビゲーターシートは変形させることで、後ろ向きに足をゆったり伸ばせるようになって来たりと、クルージングを楽しむ方

には、とても嬉しく、お洒落な機能を持ち合わせてくれていた。収納に関して中央部分にフロア、左舷、右舷に大型ストレージがあるため、とても便利な構造となっている。エンジンは、1.8Lハイアウトプットエンジンを2基搭載しており、360馬力の迫力ある加速感を可能にしている。これにより様々なドライバーの操縦の際に出てくる要求に対しても、しっかりと応えてくれる。また、クルージングの際に便利なクルーズアシストは長時間のクルージングの際に、スロットル調整をせずに一定回転数での走行を補助してくれる。また、コントロールボタンの操作でエンジンの回転数の微調整まで行うことが出来る。曳き波を立てたくない時に役立つノーウェイクモードは、最徐行が必要となるようなエリ

ア(マリーナ内の桟橋周辺や水路等)で、微妙なアクセル操作による速度調整を軽減してくれる、安定した低速走行をサポートしてくれる。このように、操船をよりスムーズにしてくれる嬉しい機能が満載となっていた。そして、実際に乗ってみると、この『AR240 High Output』はさらに圧巻の走りを見せてくれた。まず特筆すべきはこの爽快な加速感だと思う。スロットルレバーを上げて直ぐにこの加速感にはとても感動してしまった。そのまま加速を続け、旋回に移る。こちらスムーズに旋回し、旋回性についてもとてもスムーズだった。ボディの美しさと、パワフルな加速性能が走っていてとても良いボートであると実感した。続いて『AR190』の撮影に。乗り込んですぐ『ほんとに19フィート??



色合いが良くお洒落なロゴ。



パウシートにはクッションも付く。



広々とした収納スペースは便利。



ゆったりとしたドライバーズシート。



コンパクトで見やすいロゴ。



パウシートの下には収納スペース。



左舷に便利なダッシュボックスがある。



ウェイクをとことん満喫出来るゲート。



スタイリッシュなウェイクゲート。



足をゆったり伸ばすことが出来る。



高次元でバランスの取れたエンジン。



点検しやすいベラー点検用ハッチ。



中央部分には大型ストレージがある。



シート裏には豊富な収納スペース。



PWC用エンジンをベースとしている。



点検しやすいため、とても安心。

』と思ってしまった。これはスクエアパウデザインにより19フィートとは思えない1クラス上の居住性を実現していると言える。また、スイミングプラットフォームも装備されているため、様々な遊びに対応している。更に、トランサム部分は突起が少ないため、プラットフォームをより水面に近づけることが出来、スペースもワイドなスペースを確保し

ている。そのため、例えば皆でウェイクボードをして遊ぶのなら、とてもリラックスして楽しめそうだ。スポーティーなボディに1.8LハイアウトプットNAエンジンを1基搭載しており、乗っていて非常に面白いボートだと思う。また、マリンジェットのジェット推進システムを組み合わせることで、きびきびした走行性能を実現し、操船時にストレスを感じる事無く

、しっかりとしたレスポンスも伝わってくる。そしてスターンドライブ艇などと比較すると、パウアップが少なく、いち早くスムーズに滑走状態に入ることが出来る。乗り出してすぐにパウの高さが下がっていったのが非常にイメージとして良かった。今回この2モデルに試乗してみて改めて、ヤマハスポーツボートのパワフルな走行性能に驚かされてしまった。や

はりこれだけしっかり自分の要求を表現してくれるボートは乗っていても非常に魅力的で、そもそも飽きが来ないということで、長く遊ぶにも適しているのではないかと感じてしまった。やっぱり乗ってみたい事には考えたり、感じることは出来ないもので、興味を持たれた方は、是非一度今回ご紹介した2モデルに試乗して頂きたいと思う。